

★ブラジル労働運動の強さと課題（中）＝山崎圭一（横浜国立大大学院教授）

2 労働省の消滅と軍人のプレゼンスの増大

テメル大統領によって労働者への攻撃の素地がつくられていたところへ、ボルソナル大統領が登場した（山崎 2020）。彼は矢継ぎ早に数々の改革を実行した。たとえば省庁数を大幅に削減し、労働省、財務省、企画予算経営省、都市省、文化省、スポーツ省、社会開発飢餓撲滅省などが消滅した。外務省、司法省、厚生省、防衛省、環境省、教育省などは維持され、経済省が新設された。労働省の役割の一部は経済省に吸収された。たしかに PT 政権では省庁が増えすぎたので（ピーク時は 39 省庁）、一定の削減は適切だと思われるが、激減というべき再編であった。

閣僚は 22 人に減ったが、そのうち元軍人が 8 人で、数え方によっては軍政時代（1964 年～85 年）以上に軍部のプレゼンスが大きい。「数え方」によるというのは、軍政時代は陸海空と Casa Militar という組織の 4 人の大臣がいたが、いまは防衛大臣 1 人ですべてを代表しているのだから、これをどう数えるかによるという意味である。なお大統領自身元軍人であるが、1991 年以来 7 期連続で連邦下院議員なので、政治家としての経歴は長い。

軍の影響という点では、「学校の軍事化」という教育プログラムが拡充している点がある。これは、小中学校に軍人を派遣して、学校の警備や経営の一部を担当させたり、生徒の行動指針に軍人規律を導入する（髪型規制など）といった事業である。PT 政権下ではじまっていたが、ボルソナル大統領になって導入する学校が増えている。「学級崩壊」といった「荒れる学校」という問題はブラジルでも深刻なので、軍人による躰を歓迎する向きもあるようだが、むしろ、教育にはなじまないという批判もある。筆者自身は自由な教育を信奉しているので、軍人の参画には教育論として強い抵抗感を覚えるし、その教育効果を疑っている。

3 ストライキの多い社会

軍の影響力が社会の中で拡大するのは、軍政時代に戻るのではないかとの懸念につながるが、他方で日本人がもつイメージとは異なる面もある。州には Policia Militar という軍事警察があるが、2013 年頃から全国で増えた PT 政権への抗議デモの最中に、待遇改善を求めて各地でストライキを実施していた（ただし州の軍事警察には憲法上ストライキ権はない）。職務遂行がもっとも求められる瞬間にストをうつのは、労働組合活動の戦略上正しいと思うが、抗

議する人々の一部が暴徒化している最中に、治安維持を放棄して軍事警察が憲法違反の賃上げストしている状況には、筆者は驚いた。ストライキの多いブラジルらしい風景であった。

PT への抗議者が右派で、それに州の軍事警察が呼応して抗議のエスカレートを促進したという穿った見方は可能であろうか。それは間違いであろう。当時の抗議運動は、その仕掛け人は右派だったかもしれないが、運動は国民全体に拡がっていた。また、暴動を黙認するなら、取締りをしなければよだけで、わざわざ憲法に違反してまで賃上げストを打つ必要はない。「白色スト」

(greve branca) とも呼ばれていたのも、純粋に労働者としての待遇改善を求める行動であったと思われる。

2015 年 8 月 (現地冬) に首都ブラジリアにあるブラジル中央銀行 (日本の日本銀行にあたる) のマクロ経済政策担当者に友人を通じて取材を申し入れたところ、快諾されたので、ある日中銀にむかった。当日彼とのアポは、ドタキャンとなった。どうしたのかと知人に聞くと、「玄関のあの壇上で演説している人だ」という。同銀行の入り口と、道路をはさんだ反対側の歩道に、目算で 200 名ぐらいの職員が集まっていた (写真参照)。それは労組の会議らしく、中銀としてストを打つかどうか協議しているとのことであった。私の取材相手の方は慎重論の立場から演説をされていたが、いずれにせよ労組のリーダーの 1 人らしい。そもそも、中央銀行の玄関先で労組が集会をしているのも、不思議であった。

数年前、サンパウロの地下鉄 (サンパウロ州営) では、労働者のストの予定日か、それに近い日に、列車の衝突事故が発生したが (幸い死者はいなかった)、ストはストで敢行すると発表していた。日本ならストは中止するのではないか。

ブラジルではいまだにストライキが盛んであるが、今年 (2020 年) は新型コロナウイルスの感染拡大の影響でさすがに減少した。上述の『フォーリャ・デ・サンパウロ』紙のオンライン記事 (2020 年 7 月 17 日付け) によれば、1 月~6 月の期間のストの数は 345 件で、昨年同時期の 577 件と比較して 39% の減であった。それにしても、パンデミック下で減ったとはいえ、今年前半も 1 日平均 2 件弱のストが実行されていたのである (記事の URL : <https://www1.folha.uol.com.br/mercado/2020/07/numero-de-greves-e-omenor-em-quase-uma-decada.shtml>) 。



出所：筆者撮影（2015年8月）

（次号に続く）